



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：金融危機の国内プロジェクトへの影響(10月15日付アラブニュース紙他)

1. 14日、サウジ鉱物公社(マーデン)幹部は、同公社とRio Tinto社の106億ドル規模の合併事業は、金融危機との関係でレビュー中であると述べた。ドバイの産業会合で、アブドゥラー・ダッバーク・マーデン総裁は、サウジにて建設予定のプラントの決定に関するタイムフレームについて述べることを止める一方、他のプロジェクトについても金融引締めと経済原則を背景に再検討中であると述べた。
2. 同総裁は、「現在の金融危機の影響の観点から、全てのプロジェクトをレビュー中である。プロジェクトの予定を遅らせるかどうかについては決定していない。遅延は一つの選択肢であるが、それについては今後決定される。ただ重要な点は、鉱物資源は長期的な活動であり、金融不安は短期的なものである。恐らく一年程度しか続かない。しかしながら我々は長期的に計画しなくてはならない」と付け加えた。
3. ダッバーク総裁は、マーデンとRio Tintoが進めているアルミ精錬プロジェクトは建設準備段階であり、周辺の鉄道建設を踏まえ、2010年までに操業開始予定である。マーデンは、アルミ精錬プロジェクトは年65万トンではなく、74万トンの生産量となると述べた。